



明治七年
誌
從八月十四日
到八月十七日

甲戌
③

早稲田大学図書館
文書 27
A 45
2



百十卷之田字了芥火改區東此

明治七年

一月十四日

左院に倒刻出勤無事
才扱在宛子家園築地

十者

早起在院下持運和束在

昨午由持七所定屋在大使

帰途倉考しと狼藉物七人

馬車在坂下物掛怪奴所被

引延 以者 其由 東
惠 華院 光 庵 之 弊 凡 弊 之 由 也
惟 衆 相 姑 抑 之 滿 中 之 道 隨
下 時 事 務 亦 之 浸 也 凡 難 七 次 所
不 其 由 之 西 者 抑 抑 之 東 矣
漸 苦 而 有 之 然 付 之 其 後 何 何 何
沿 後 言 之 對 應 以 其 中 之 沿 後
之 身 也
全 行 必 終 戒 心 有 之 一 九 九 古

金花堂

規 期 限 之 持 子 然 之 殊 異 也
初 之 身 也 云 之 勤 勤 勤 志 隨
部 之 身 也 云 之 勤 勤 勤 志 隨
即 於 此 後 之 議 參 內 子 也 云 之 志 隨
捕 之 也 云 之 志 隨
院 中 之 志 隨
談 之 也
三 浦 淺 井 田 行 今 之 人 之 白 善 也
飲 之

十六日雨

終日在部抄北澤河邊官事本紙

十七日

書勢 以庭建皇太后院塔來

其民監鐵院刻亥行十

書勢

副國府臣抄庭家平

抄極正片江縣抄平

金花堂

由利山正

山宅信更

國本建牙 長澤正平

其面連名之

海原抄拒由利之勢也又而右

以日獲御主上於其後長

其公之臨御

十八日

其院識官之流始之書白廣

其名安後之正正其上陳子

十九日

如郵の略の土河人共知捕縛得た
武市やおらお中西集りて中興
し海軍制を交る捕縛のりて
口糶大漢傳ありて一書に
乱起多かりて多列軍連名に
らむあり

与る大南詔華大政官代に
副度局記の田てや、事の内張

金花堂

左院改革の事あり

与る副島通臣等が建白書に

上陳始末の事あり

少少の作りの好むの御縣時、
お尋るるものありて、
岡本健三郎の海軍の事あり
お尋るるものありて、
お尋るるものありて、

二十日

左院無事

國書好々集解推測了時接の

来ナラシ

後仰と云ふは了る後仰の字にナラシ

お古きもの振替の西字の均一集の御

三ナラシ

丹波平木子安の御中母の字ナラシ

森野の御中母の字ナラシ

右の御中母の字ナラシ

右の御中母の字ナラシ

金花堂

阿房の御中母の字ナラシ

三ナラシ

阿比子坂高野の御中母の字ナラシ

且ホリス人選了る御中母の字ナラシ

中一安の御中母の字ナラシ

批

三ナラシ

白土子の御中母の字ナラシ

阿比子の御中母の字ナラシ

勅使到京不禮服者申出後持
此物何事一知十時着門
多終 天皇大禮服也着用能事
大臣三采公始一と文武官復出頭
左右列立連隊二人の赤旗也
此物一臣等謹テ勅布奉之死力盡
し誓ふ國家の保護を以てする邊事
はら也天氣の事壯觀なり
三條大政大臣大久保白鳥卿大木司法卿

金花堂

伊藤曰ク大政大臣の交換スレトシ

伊藤工部卿。黒田教部少輔

土方大内史吉井宮内大輔山口外務大輔

吉田大藏大輔

武官山形陸軍卿の首トシテ野津曾我大

面ナリ西郷陸軍大輔不采ナリ

ハ連隊旗の如クヤ大旨必ク朝權

ツタヒテリ山公暗殺ノ賊モ未ク不知シヤ

副島亦松衛モ容易ナラス之ヲ要スルニ朝

権ノミナル實ニ政ヲ為シテラス此舉ハ所攻ナリ

小森澤河車 湯治

津田山中 采木縣 子孫傳 七百
人 寺あり 包口 櫻華 津田 九

二百

之時 黒田 開板 湯治 山 入 遷 卒 遷 居
之 身 千 坂 高 野 多 居 之 老 死 新 野 野 多
深 察 之 善 者 七 百 餘 人 任 之 口 口 口
之 身 口 人 之 六 十 多 可 述 之 能 成 事 中 子 子
齋 齋 齋 萬 後 口 口 口 深 上 遷 為 湯 治 之 子

金花堂

廿八日 黒田 湯治 事

平家 口 口 然 又 年 院

大 院 湯 治 官 口 行 由 國 外 口 口 口 十 時 頃

二十

年 院 無 事 伊 丹 口 口 口 內 事 口 口

湯 宅 芥 川 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋

二十

晴 之 風 口 口 口 拜 命 人 員

内務省 古書 中里盛廣

敬言保察工考出江平賀之勇

日 侍藤甲作

日 代藤四郎

権以敬言部

空庄田茂正

中子信仁来んホリスノ事々候了

香白故昌邦来ん

廿七

内務省有ん事了新田由五ノ用候

ホリス變年ししより候ふ申上し中子信仁

金花堂

右院出勤を事

新田由五候り候事伏候返り申上り

廿七

右院出勤候事候事候事候事候事

右院出勤候事候事候事候事候事

一多来り候事

右院出勤候事候事候事候事候事

淡路しホリス一多来り候事候事

浅井昭文内務省有ん事

淡路しホリス一多来り候事候事

要集の如地是就中何の義を以て
為人大成は斯の事
也

可成り不美也
以て其の義を以て

中世以来新田吉成は多しん也其の
其は仁神判を以て

之由三印と高松内教の事古田木
新田補は其の事也其の事也

系多し其の事也其の事也
金龍堂

千坂高程

若澤政温

長後付三

湯野川志園

三十日日記

若加天由は其の事也

中世丁末の如新田の事也

後台在家府の事也
其の事也
其の事也

大工とあるはあつし小普信
 権九様と靈為の菓子進献
 三十一日
 七時上杉様と申候に申出振はり
 奉院に事
 三田三卯一丸院に申候
 奉院御止の御も御儀に不同候事
 申候に云候事何と云ふ事
 候事

金花堂

易傳久光公の定候事申候事
 文信の事候事候事久光公の御
 出勤事

二月一日晴

中里来ル木如細相談午候、示談ノ中
 十坂、云代り候事

赤澤人民病苦、廉
 侍組下座敷吉田久義少輔之由候事
 民議院建白の形候

九列西郷、沈着、挨拶

義社、金義臣、臣、臣、臣

山形、併、与、縣、尾、奥、見、一、座

古藤、政、高、大、東、考、鞆、公、家、后、の、年、り、華

旅、上、院、連、白、一、疑、り、礼、し、ら、ら、り、

古、海、初、係、考、得、り、仰、り、東、証、

此、後、大、東、雅、の、見、う、ら、ら、り、

う、め、田、あ、り、園、家、洋、店、り、ふ、わ、の、公、家

○中、軍、古、海、初、係、考、得、り、仰、り、東、証、

此、の、初、の、あ、り、事

二、日

い、ち、不、多、座、の、事

甲、子、の、東、証、の、子、及、り、古、海、初、係、考、得、り、

親、の、古、海、初、係、考、得、り、仰、り、東、証、

金、五、圓、用、い、ち、考、得、り、

三、日

系、院、の、古、海、初、係、考、得、り、仰、り、東、証、

根、を、上、古、海、初、係、考、得、り、仰、り、東、証、

拙大書を其後日侍事高行の好
新書の老松志云今可也

抄

多院の筆事 叔在并三庫の傍に
遊

抄

多院以下平家高行の好
伊藤友入東海高行の好
後院の好 長光公の好
超 高行の好 高行の好

金花堂

長光公討海防の好 高行の好

高行の好 高行の好 高行の好

中平院の好 高行の好 高行の好

朝廷の好 高行の好 高行の好

高行の好 高行の好 高行の好

高行の好 高行の好 高行の好

高行の好 高行の好 高行の好

高行の好 高行の好 高行の好

高行の好 高行の好 高行の好

好色如親大兒之新海其為後
の南由者物一存也

村第土事其法

道送の年梅松の植且七我の
可新指朱載之

午の為山三三島古五為峰
如國親壇動白内務大五有海海

事洗泉十

水事一と毛聊

金花堂

七日

兼院退下子坊より去我の東院

事海の時情の第と詳衆時より日

ホリス七園第我臣控屋し師の更子親

善より故去境海ありて百の植遺

流ありて留や身の時けを其の更

黒田南極浪浪方より送く程大急

内務卿とある通る極中其の事

相上は様事上其成の事

謝院之徒此之者子當公極也
其言也深也

系院之書曰之什庭也以此也
子故之也此子也也也也也也也
少江而國國國國國國國國國國
○三條公昨夜島津為公也也也也
り。以公也也也也也也也也也也
之駭也也也也也也也也也也也

詩在堀河
御内

島津久光公
左大臣被任

金花堂

森之身事
明書森
入手

相森也本東也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也
十言也也也也也也也也也也也
平也也也也也也也也也也也也
昔也也也也也也也也也也也也
り也也也也也也也也也也也也
年也也也也也也也也也也也也
縣廳也也也也也也也也也也也
征討 民也也也也也也也也也也

作唐程驥
部、天、

長壽寺

大久保内務卿

九所、

の、

野、

山、

神武天皇紀之、

少、

神武天皇紀之、

金花堂

三島教家五
霧島、神、
鳥越、遷、

島、

比、

野、

鳥、

野、

野、

野、

野、

野、

お大なる御事 恒徳は法座に 了す
市井の御事 恒徳は法座に 了す
りやまを九に 九折採録 由徳師也
十折の御事

兼院林直庵より 恒徳に 事りて 事
高崎の御事 恒徳は法座に 了す
御事 恒徳は法座に 了す
御事 恒徳は法座に 了す
御事 恒徳は法座に 了す

金花堂

御事 恒徳は法座に 了す
御事 恒徳は法座に 了す
御事 恒徳は法座に 了す
御事 恒徳は法座に 了す
御事 恒徳は法座に 了す

御事 恒徳は法座に 了す
御事 恒徳は法座に 了す
御事 恒徳は法座に 了す
御事 恒徳は法座に 了す
御事 恒徳は法座に 了す

此日島津志
九州に出張
勅書は並
口崎向御
書居大不
儀多即
四書の
批

柳海一ノ奥十ノ歌東洋抄別

十七

参院以右院大政古成門符

海運三浦白道木村等ノ訪事

中政之老云某公云白見ノ

森多ノ物ノ

針路勿誤用入来ノ

十七

上杉攝系上之為其大也田

金花堂

御家書

十之口在院

海運三浦白道木村等ノ訪事

中政之老云某公云白見ノ

森多ノ物ノ

十七

参院以右院大政古成門符

海運三浦白道木村等ノ訪事

中政之老云某公云白見ノ

森多ノ物ノ

二十

系院... 物... 德... 雷... 披... 法... 意... 不... 道... 光... 相... 柱... 令... 三... 然... 遊... 德... 喚... 本... 九... 大... 事... 燒... 朱

... 物... 德... 雷... 披... 法... 意... 不... 道... 光... 相... 柱... 令... 三... 然... 遊... 德... 喚... 本... 九... 大... 事... 燒... 朱... 物... 德... 雷... 披... 法... 意... 不... 道... 光... 相... 柱... 令... 三... 然... 遊... 德... 喚... 本... 九... 大... 事... 燒... 朱

金花堂

何如

... 物... 德... 雷... 披... 法... 意... 不... 道... 光... 相... 柱... 令... 三... 然... 遊... 德... 喚... 本... 九... 大... 事... 燒... 朱

... 物... 德... 雷... 披... 法... 意... 不... 道... 光... 相... 柱... 令... 三... 然... 遊... 德... 喚... 本... 九... 大... 事... 燒... 朱

二十

系院... 物... 德... 雷... 披... 法... 意... 不... 道... 光... 相... 柱... 令... 三... 然... 遊... 德... 喚... 本... 九... 大... 事... 燒... 朱

煇惑^レり^レ九^ノ州^ノ、播^ル亂^ル會^ス、
大^ニ存^ル由^リ勝^ル卿、^{多^ク卒^ストシテ}お帆^シ天^ノ兵^ノ、
所^ニ向^テ賊^ヲ徒^ニ敗^レ退^ル、^{此^ノ以^テ時^ヲ及^ンテ}
島^津、^{以^テ光^公自^ラ書^シ及^シ鹿^見島^ノ、}
到^リ西^御降^盛引^出シ、以^テ國^事ヲ^傳
ラシ^メ然^レ西^御降^盛引^出シ、以^テ國^事ヲ^傳
サ^レリ^テ起^ル征^韓ノ行^ハル^大久^保要^論
ヲ^發ス^而シ^テ山^ノ後^ノ從^テ矣^子、
出^スシ^テ兒^洞ヲ^結、^{猶^大ク}云^フ、^也

金花堂

後長世をモノ
ハ即チ薩摩
ヲ指スル

天下万^ノ事、自^ラ知^ル子^ル者、如^シ是^ノ次
心^事、唯^大久^保一^人ノ擔^當力^ヲ付^シテ自
ラ^安心^スル^{ナリ}、世^ノ人^ノ不^知其^意、却^テ不^平
ハ然^ラシ^ル所^ニ、認^誤テ、然^レ種^ノ計^策
ヲ^出ス^比、^如空^中ノ^幻花^{ナリ}、^雖然^レ征^韓
行^ハル^ガ、^西御^ノ不^出、^西御^ノ出^セ、^久光^ノ不^歸
久^光歸^ル、^子ハ^人心^ノ不^動、^搖ス^以、^動搖^ス、^兼テ
後^ノ也^賀、^子ル^者、^踵ヲ^起、^亦不^可知^ル、^然到^リ
テ^國、^元氣^ヲ、^益々^ニ、^衰弱^ス、^是時^ノ存^ス

國家を為すに内務卿、捷奏を以て
歸り、断然征韓、遠策の安んじ、内
民選、議院の三國、憲法の明し、
政、天下、為る、東洋、福を祈るべし
二十三日
議院昨夕方、電報七時より、官軍海軍
軍轉、三戰、官軍大勝利、放火進入
兵隊、勇氣、漂、明日、は、旅、冬、ハ、シ、ト、ノ
義、内務卿、三、報、アリ

金花堂

退下、池田、新、以、七、藤、有、人、リ、扱、お、半、と、話、ス
二十日
議院、電報、官軍、始、清、山、賊、矢、リ、追、為
し、勝利、五、書、あ、略、の、長、崎、の、討、り、ラ、ン、臨、場、ハ、偉、カ
里、ウ、守、ル、ン、言、ウ
議院、刑、多、ク、待、立、有、未、決
退下、廿、行、決、砂、屋、子、の、地、事、方、中、動
る、罪、の、縣、令、より、私、刑、も、調、査、之、地
百、の、事、也、

廿五

初深不若力身不來金山海以母
下傳親英那彼古尉公臨城
齊同舞平業未

廿三

十二時上保生以年及里老陸州
東之梅在府泊運花川飲

金花堂

詩話

○此見古書抄抄碧智庫陸軍中將
山縣海軍中將伊原大司馬中
廿七

余院信
一五訂
松刺
内防
考

戊辰未就
若後産云
招恒有常
以来美好
宗者番門
外方此
此蓋附際云

他頃平定云云一日内務卿入侍
電報巨魁以森服志云
内務卿より電報其又電報
侯若何山縣伊東陵海
云云下出既
曾此極極良事海軍
乘此海縣授云云
云々

金花堂

方木、考
大元氣
頃、賊
大威
赤老

大段定
一、出ら
○、お
尾行公使
残、可
山、虎
夜、負
海、の
七、の

流球

三月廿日
板垣土佐

信
島
藤

新井 願 于 他 地 亦 復 有 其 德 也 耳
寺
多 院 由 此 望 則 復 長 可 以 為 後 漢
寺
寺 亦 有 坊 也 見 其 新 別 居 之 時 也 其 坊 也
寺 於 東 院
十四日板垣今日土佐帰
十日

金花堂

雪

十日、風雨于終日、事一、轉、
報、知、院、正、一、海、邊、事、
其、五、十、日、郵、便、之、事、
。 徒、學、之、形、勢、以、康、平、之、時、
。 而、所、并、之、島、津、之、公、之、時、
。 柱、之、高、野、之、事、
。 而、所、并、之、島、津、之、公、之、時、
。 柱、之、高、野、之、事、
。 而、所、并、之、島、津、之、公、之、時、
。 柱、之、高、野、之、事、
。 而、所、并、之、島、津、之、公、之、時、
。 柱、之、高、野、之、事、

おのり物

十九日

午後おのり馬車馬車馬車

馬代三子園遊

二十日

二十一日

二十二日

二十三日

二十四日

午後おのり馬車馬車馬車

馬代三子園遊

午後おのり馬車馬車馬車

馬代三子園遊

午後おのり馬車馬車馬車

馬代三子園遊

午後おのり馬車馬車馬車

馬代三子園遊

海舟の言はる事は此迄多岐に及ぶ
りて予は其の副長に就て其の
十六生に換りて其の在りて其
割り失ひ多し其の在りて其
古教の如く此の在りて其
本田の如く此の在りて其
如く其の在りて其の在りて其

金花堂

示す如く其の在りて其の在りて其
平也。

海舟の言はる事は此迄多岐に及ぶ
己の言はる事は此迄多岐に及ぶ

予は其の副長に就て其の在りて其
十六生に換りて其の在りて其
割り失ひ多し其の在りて其
古教の如く此の在りて其
本田の如く此の在りて其
如く其の在りて其の在りて其

時勢也固成者乃集

其方也

了六、南天、東海、日、此、體、然、
方、之、為、之、如、手、流、法、去、晚、來、乃、子、
只、之、弟、國、如、去、也、故

其方也

其方也

林乃、系、院、松、林、寺、招、飲、谷、小、室、回、談、
林乃

金花堂

小室、七、七、六、六、
民、匿、源、院、建、白、
中、日、賦、起、也、
江、蘇、子、塔、下、
流、可、挾、也、孫、道、三、海、光、也、

三十日

三十一日

四月一日

今日之好晴、身、際、川、色、如、畫、矣、少、的、
拉、德、甘、米、三、升、

拉、平、字、名、東、門、院、系、後、法、寺、有、佛、像、
下、

系、院、之、名、也、石、川、縣、志、錄、六、人、
時、地、方、系、也、錄、一、任、錄、之、備、也、

石、川、士、族、六、人、
中、之、姓、名、之、不、記、
其、中、他、日、也、
自、國、也、也、也、也、

好意を
當り好策
言う時
小倉七郎

昨日十月八
日拜訪

為時海江の國の初層の
海軍の好意を當り好策
言う時小倉七郎
六乃島に於て又却る
海軍の好意を當り好策
言う時小倉七郎

初々大久保の九州の行や
海軍の好意を當り好策
言う時小倉七郎

副島
本原寺
皆足佐
土族ノ島
津島公
月の正
政之公
後

又島海軍の心公一
海軍の好意を當り好策
言う時小倉七郎

約は一泊セント故也

秋苦澤東諸類、慷慨して入

苦厚島屋、一醉、十二日、

十、雨

乃時三條公より、御遇、言、中、第、殿

置、賜、縣、地、治、民、情、是、果、細、心、守、不

成、生、尚、中、良、と、大、久、任、河、舟、を、

如何、お、海、の、あ、や、

吾、河、の、あ、や、建、白、の、通、り、九、と、

金花堂

已、漢、定、今、更、之、不、可、挽、曲、名、國、の、李、公、也、

大、回、彼、島、の、徑、靡、也、三、以、及、如、

驛、先、方、遣、之、且、昨、有、征、驛、也、

節、征、基、可、致、一、願、儀、也、

為、後、後、局、の、機、也、

政府、之、言、は、亦、不、後、也、

何、分、他、命、の、身、也、

元、老、院、の、は、創、多、也、

小、細、事、也、

繁細... 雨... 火事

十

可子... 海... 機

金花堂

江藤新平 島義勇 今晩斬罪 梟首

十三日

系院... 海... 梟首

梟首

系院... 海... 梟首

大藏卿大隈重信長崎出張
今日發船大藏大輔吉田清成代理

命
以條頭多疑惑

地方官集會不同教令ノ取調
方之

以通書記官本田細川太田省長
實ノ開ニ乘込

頃口太田國龍三梅花路本ノ吸

十八日

金花堂

糸院

一等議官福庭孝徳三命共

建白人規則改正ノ取調ヲ致シ大抵

決シ

成反事清記差込ノ入キ省又シ

麻生課長松文輔申上ノ旨

一寸面會

帰途平湯訪又蓬萊社到後

藤田會場金所析ノ事十日事

因本健三郎明日高知縣歸上

北頃何人所

北風吹雪雁橫天月暗白沙潭水邊
木末蕩蕩雜葦枝葉江隈忽聞子
助樵賸批節戲為急友國避入
蓬萊非似子仙聞說大軍臨
近皇城更有色不厭然

十九日

金花堂

系院

天白皇以日大政官議事

內史金井之恭北海丸出航長崎

馳

一日臺灣海防而告口外務大臣

上野景範云壯國之善也者之云

建白

魯西西其他設一局外中事

以系八國大事十一

局外中之
相成り日清
戦和相分
レハ際有米
國引レテ両
間ニ立キ
李仙得ハ
張船トシ
五箇ニテ
是ニ至リ船
買ハシムル源
田ナリ

李仙得ツ米利堅ヨリ引ク反
旨公使申立飛脚船司新右ハテ國
局外ノ議ヲ起ス
此日海軍省ニ河村純義是義
ニ餘程論シテ
此事ヲ懸念スル者ハ他日取調
可致
○他日賀表ヨリ総督伏見宮内務卿
大久保ト白長崎出立ノ電報来ル

金花堂

十九日河村海
軍少輔強
論方ハ取ハ
薩長島ヲ
歸ルノ後
十九日

家内平島ハ針治ニ集
芥沢入来談話入也
庭島原右大市三郎ノ見舞
二十日
朱院
○田上皇灣事作ノ瓦解リ
後来ノ政府ヲ謀
○三浦半田口ニ共芳方原ハ櫻樹見

解放後精神散乱家室甚一時
停宅

二十日

島津從臣
着京

昨日島津從三位着京ト云フ
上杉神社祭例ニ付朱詣皆金剛
能アリ山内公入来

奥十ニテ堀尾重興ヲ首トシテ入沢日黒
町田高橋門屋櫻葉即羽鳥養井藤葉
宮本小倉信宜ヲ勸飲ス

金花堂

上杉勢見
勢見是ナリ
有北居飲ト云

海江田信義入来。戸田森孝ハ七代
二十日

参院

臺灣ノ事件ノ調書ヲ九國共ニ閱
日本天皇ノ赤傷方ハ石相見實ニ海賊
ノ所業ナリ信義我更ニ不立到底ハ
權謀術教ナリ嗚呼危哉

今日ニ時正院参議退職ノ様子
初メ木戸参議臺灣征討事

不同意連中不致也然之致之致
艦事相成否や各國局外論起
之依テホク辭表進達ス然之片
日伊藤大輔等島崎四人唯勝
ハ残り盡ク退職ト云フ

島津後三位参内三條右衛門
以頃ノ形勢實ノ不堪抱腹亦難息不
堪ナリ之ヲ何ラモシカ歎ニ到テ人民ノ會
議モ起サザルベカラス

金花堂

副議長亦丸ノ跡見カチ政官ヲ亮云
皇居ハ西丸ナリト云フ

三浦戸田丸岡ホ會テ曰ク新然ニ征蕃事
ヲ此ノトス然シバ半途強道スル却テ害ヲ生
ヤリ依ラ再建白スント約定ス

歸宅門屋大瀧平賀香坂高津ホ來會
亦花印ヨリ小室三浦ノ法引出來ル不快
ニ付皆新ニ針人木村來リ治療

二十三日風雨

糸院。副議長不系。再度、建白書
此函執筆。因本。以。清。馬。在。托。し
松園。三。等。出。仕。迄。差。出。交。早。速。申。地。知
に。お。興。候。事。

以。在。風。雨。平。系。の。如。分。相。國。事。在。者。托
在。櫻。の。者。の。雨。却。り。好。海。南。七。七
後。花。之。庭。事。者。火。事。方。所。端。と
馳。身。交。本。亦。不。也。し。り。長。程。訪。以。火

金花堂

七久保内務卿
還自九州

二十四日

糸院再建白。副議長。同日。意。三。條。殿。下。迄。進。出。事。中。に。五。成。年
之。相。親。砲。射。行。は。見。定。内。務。卿
方。久。保。九。州。の。為。事。也。り
以。道。筋。の。者。篤。信。の。房。者。事。場。尾。等。に
昔。伏。木。在。の。事。に。到。り。七。夜。尺。事。に。し
如。野。原。の。後。の。御。事。也
年。あり

参院

至上海臨幸
由務卿 参院
室向新 以日子
正朝儀あり之

西度ノ建議在院ニテ本職ニ置ク

与松岡ノ書及國ニテ書記官ニ差出ス

題淺井晴文宅ニテ談話

御多謝候

持力之日新印及海防之機

金花堂

花盛園朱松松人長好ナリ

ニテ

我政府已ニ臺灣ニ兵ヲ出スヤ各國公
使横濱ニ會スセルニ魯西米利堅佛蘭西
英利比皆曰ク是レ即チ果ノ大害ヲ生シ出
スヤリ清國ニ會テ何ノ議ヲ為シ定ムルヤ又
今度更ニ其事ヲ告テ不聞 局外中之也
其ハカラスト決ヒリ且英ノハアラス曰ク日本政府
三ハ如キ海外ニ兵出スニ人民ニ不問ス

己之右ノ如キ議論海内各國より生レ又ハ
内地人民ハ比白政府ノ危キヲ歎セリ己ノ如キ
形勢ニ推移スハ也モ政府ハ不立ナリハ去獨
裁ノ政体ニ却テ幸ナリト人民ヨリ政府ノ
内ノ如キ錯雜ニテハ規知ルヲ不得徒々疑
惑スルノ也

舊知事ニ新池田ニ成テ去類ヲ談
前島密山ノ系ニ神ヲ彼カ新宅ヲ訪ヒ
走邊ノ山水ナリ殊ニ荒ル亦也

十日齋堂

洞簾ノ白身好ナリ

萬壽ノ系ニ舊同情ノ述ノ酒

三酌

景年ハ...

黃昏昏雷東ノ急雨大ニ西ノ水
不思議ノ氣味候ナリ
月如老態在在前櫻の花杜鵑
方其ノ流ハ

三十七
とあは

退下より高崎の五六共副将長
 宅の訪に藤頼の書あり北丹
 花盛より竹の園の書あり
 秋来より大達園中前知事
 淡し殿に能くこひ作う精耐
 可飲お入りのかん
 二年八月
 来院退院後大久保の御
 岩倉の御と云つ

金花堂

征夷ノ儀
 大久保確守
 ト三ノ不動

大久保再向九州

三陸岩倉島津 三大院の
 層の大人保の御書あり大久保長
 崎の山張の御成
 二十九日
 来院の御書あり大久保の御書あり長崎
 表の御書あり
 退下ノ御書あり
 伊予の御書あり

大久保、佐賀、臨、其初、の、島、津、
 事、の、設、の、出、張、セ、雖先、未、其、諸、リ
 卷、又、作、貸、暴、徒、ノ、鎮、定、の、頃、以、儀、忍
 然、之、起、、陸、軍、者、其、事、務、局、之、設
 多、大、隈、事、務、向、長、官、の、却、セ、ラ、レ、リ、誰、之、命、
 中、秋、際、三、條、捐、物、相、成、、唯、以、命、出、ス、レ、
 亦、可、憐、可、歎、極、イ、ラ、ス、、ヤ、却、テ、、恒、幕、内、
 三、密、食、大、久、保、ア、ル、ア、リ、大、隈、其、際、ニ、目、立、
 之、ノ、、可、憐、甚、キ、ナ、リ

金花堂

此日大隈、途中、二、人、相、撞、リ、、二、、西、國、ノ、
 外、田、ノ、、飲、ニ、、味、概、シ、、飲、ナ、リ、、反、来、
 得、

昔月百

馬車、其、覺、シ、、載、セ、、玉、子、ノ、、港、飛、島、
 眺、望、如、ク、、蚊、立、リ、、飲、薬、帖、ノ、、粘、
 木、座、ノ、、六、寸、内、也、、高、野、樓、木、二、本、
買、ス、レ、、
 横、

二日

年院

横

酉日十二時迄千坂ノ談々

年朝

十日年朝采録臣送別飲八白善

三冊 九冊 十冊 十一冊 十二冊

十一日千坂由苜苜決来飲永善

白善 苜苜 苜苜

十七日年朝木林寺侍從採命

二冊 三冊 四冊 五冊 六冊

十八日年朝大久保ハ系ハ柳原前光来後

申シ尚又後刻々申シ而大層罵賜ノ景况

シ大久保ノ故被成文ハ申述ノ事也

送シ莫ウカノ一十寸

金花堂

十五日大久保長崎
ヨリ歸朝セリ
西郷等征台ノ船
長崎ヨリ度ス

廿月

大久保ノ故
事ニシテ

木林寺侍從採命ノ事
尾崎儀信ノ訪縣情ヲ談々
申上ル

十九日年朝千坂ノ談

二十日不年朝千坂ノ談

二十一日

二十二日

二十三日

二十四日

丁酉北長崎
ヨリ先ノ家
長崎買
深
立以
細地買得
也
後

二十四

二十五

二十六 宿氏に於て此一先方より近き所

二十七 入る所なり

二十八 宿邸便子六等田の内中便子百田

二十九

三十

三十一

千六百圓
以内
二百圓自金
六百圓
利割三津
八百圓
利割三津
利割三津

六月丁酉、小室信夫、東に板橋、
好成、信房、山崎、中條、政恒、東に
二百、不兼、卯地、費六、金、集
二百、不兼、十、時、水、鉄、屋、宅、の、新、了
金子、お、渡、の、八百圓、取、取、千、六、百、圓、一、り
宅、地、の、後、の、事、一、
高崎、正、房、の、喜、お、一、禮、り、述、下、娘、の、政、
長、高、中、の、後、藤、田、甚、あ、并、母、の、末、片、
三、海、の、秘、老、の、事、一、

高崎 孝遠
彼ヨリ 酒器
ナヨク 着ク

○改節
島津 長在
大久保 参議
引込 中

御在千坂ノ傍ニ本陣ヲセテ
千坂ニ向ヒテ陣ヲセテ

昨日今朝

議長ニ云不承テ昨日ヨリ出勤ニ成
今日ハ伊藤 参議モ出勤相成リテ

○新宅ハ寺島 苗守 居ルモ
出立ニ付 老父 大ハツ 名ハリテ 送別ニモ

千坂山吉 中條 入沢 長井 本村 沢東

其日 奉朝 内務 課 根本 茂樹 本宿

金花堂

一考 日記 生島 花岡 一考 ツ 白紙 綴
相成 筆

宮城縣 某商 建白 廿 畜業 之 爲メ 創立 之 儀
ヲ 議案 ヲ 草シ 上申 議長 同意

舊主 家昌 壽院 折ノ 卒去 右ニ 付テ 集ル

千坂 山吉 堀尾 行沢 森次 中條 東 酒 之 出立

六日

舊知 事ニ 集リ 終ニ 千坂 中村 榎ノ 飲ム

七日

板垣突然為智
より東に
山地北村離板
板垣小清卷
人堂隊長年
七

八日板垣は為知智より来りて身事
尋ら傷不在電ヲ不取事

板垣、来りて身、病、為、ヤリ、ニ、舊、隊、長
トモ、國、馬、ヲ、共、ニ、セ、ヌ、ト、テ、大、沸、騰、セ、シ、ヨ、シ、何、テ
後、隊、大、其、間、立、尺、力、調、和、致、セ、シ、ヤ

九日

身院

福岡縣、賞典、録、ノ、議、アリ

十日

金花堂

身院

内閣、於、テ、外國、人、内地、旅行、ノ、事、會、議

議長出席、可、不、口、兩、議、不、ハ、多、數、ヲ、シ、テ

十日兩

舊、知、事、家、志、不、奉、今、日、在、森、禮、ニ、為、白、銀、興、禪、寺、

兼、歸、途、途、中、森、沢、中、條、同、行、マ、之、山、内、徘徊、金、杉

海、樓、之、飲、之、終、大、給、議、官、ヲ、訪、高、崎、正、風、在、坐

酒、食、即、食、應、相、成、

大隈、参、兩、言、以、前、辞、表、呈、上、未、又、亦、存、答

大隈、辞、表、
海、以、田、方、落、出、

板垣、大、野、心

近前橋本
郷之里
廣府殿
身取書

之二十一日此夜額田大寺平河邸之出立

十二日

概所平河邸出立十三番地ノ新邸ノ移定

十三日

十四日

十五日

十六日

十七日

十八日大久保内務卿今日ヨリ出勤相成

金池堂

十九日

二十日

二十一日

二十二日

二十三日

二十四日

二十五日

二十六日

二十七日大隈大藏卿今日ヨリ出勤舊地

事務局(出動)是、一局ニシテ島津左大臣ノ敗劔相決シ迄、然レ成ニケリ

島津ノ大隈ヲ退ケンルヤ三條岩倉同々心ノ折多又リ請取リ断平動ス(カラサル)ノ廟議ヲ定ム然レニ大隈ノ機宥ニ乗スノ才遠ニ此ノ先リ辭表ヲ差出セシ為ニ此際大久保ホノ決断モ至リ兼子遂ニ敗局ニ相成リ是レ大久保ノ輕率又動カルニ依リテ若シ此際島津ノ見込ノ如ク

金花堂

大隈能先セラハ此後六割服制改革ホ有レハ先申出テ今日ノ形勢再ヒ脚退ノ浪ニ相成リテ大隈ノ頭ニ辭名之リ遂ニ外國ノ嗤笑ヲ来シ却ニ國勢ヲ損スルヤリ此邊ノ得失ハ大久保ノ能洞察ニテ後患ヲ救フ所ナリ況ヤ島津ノ輔翼ナリテ周旋セルモハ唯海江田奈良原ノ一片ノ正直無眼ノ輩ナリテ天下ノ事モ見レテ不忍有様ナリ

二十八日
 二十九日
 三十日
 七月一日
 二日
 三日
 四日
 五日
 六日

金花堂

上杉家(千坂吉藤并決
 来リ金子相改メ真
 松鱈ニ千坂ヲ送別

塊銀
 金貳萬六
 千八百兩

七日朝後藤ヲ訪習芥沢蓬土(年塊金ヲ賣ルニ方六千八百兩)
 八日年院退下平萬ヲ訪フ
 以日千坂高雅米決帰ル
 高雅ノ東京来ルヤ實米決士民ノ困窮ヲ
 救シテ欲レ具天下ノ事能ラセ目撃セントス
 其至酒池ノ上心聲尤憂ヘテ来ルヤリ然レニ
 依頼スル所ノ大人保ホモ不同意ノ事ヲス
 知レ深ク歎息到底天下ノ事等閑ニ着
 午スヘカラヌト深ク屏息唯舊縣下ノ士民ヲ

土州九名斬罪
右六名公刺ス
處刑

救度一慶三條毒大臣之謁之西度大久保
参議之再談之深慮リ以テ帰ルナリ以
遊之高雅一層ノ見識ヲ進ム且ハ舊君
家ノ為ニ勉カスル感スヘキナリ是人ヲシテ
今日ナカラシメハ誠ノ憂國誰カ相續クモ
アラン嗚呼可喜哉

九日茶院 退下蓬社（余）後藤面會
藤書ノ金談致事
内務課百里堤植事 樓之飲ム

金花堂

其

高崎大給年田増田太田京之根本
富島青山之間

平河町別名

柳妓四名舟二艘夜十二時星園席
十日卧病不來大雨如瀑

十日晴

是日ヨリ六十日ノ休暇ヲ賜フ仍テ事務ノ
不都合ナキ様院中縁右休暇

十二日

十三日

十四日

十五日

塊金書受却、謝辭、後藤、十二百圓遣し又下村へ来り、二、三、百圓也、且上杉蓬社、設起、名義、ノ條、ヲ談し、侯事、

右蓬社、ノ義、ハ、木林長義、頭、ノ危、急、ノ事、ヲ論し、且、意、事、有、之、節、ハ、上杉、家、各、關係、ハ、ル、ヲ、論起、仍、下村、ハ、設起、名義、除却、加入、致、如何、ノ義、示、談

金花堂

小林立、海軍、秘書官、三十日、帰省、一、日、夜、ハ、リ、来、ル、而、親、ハ、明日、迄、泊

舊、知事、へ、来、り、右、後藤、下村、ノ、請取書、古、々、藤、相、渡、ス、今、并、利、矢、着、ス

堀尾、古、々、藤、小、林立、ハ、来、ル

十六日

十七日、米、院、寺、島、太、一、左、院、十、三、等、拜、命、後、藤、細、君、関、口、細、君、高、崎、正、風、細、君、高、崎、正、母、相、招、候、事

并、丹

靜 以節燈籠
靜

十日本院

寺鳴祝^リ平野屋兄中松田本生寺鳴坊^ノ
筑波木季四郎来^ル

十九日本院三浦茅田口根本ホ^リ芳原游

二十日本院平方^ノ到^ル金丸園^ヲ造^ル後事

二十日毛利^ヲ訪^ヒ薄夜坊原^ニ到^ル寂風景

ナリ

二十二日今日ヨリ休暇^ニ延^ヒ毛利^ノ来^ル送^リ金丸園^ヲ

二十三日毛利恭助来^ル依^テ木高行

金花堂

本林寺^ノ常^ニ高^シ不^レ来^ル

二十四日本林寺^ノ中^ノ平^方中^ノ芳^原大^家族

一同島原^ノ割^リ観^セシム

庭中井弘藏^ヲ訪^フ

二十九日

二十六日

二十七日

二十八日

二十九日

三十日

八月一日

二日

三日

四日糸院退不舊邸築十_三兩親古藤_{年田}口_高歎

丑日糸院

退下古藤_年リ金_才園借来_レ

平_二萬_一ハ_三寄_レ今井_才内_リ訪

金花堂

大久保向清園

大久保内務卿明日清國行_二旨見_レ之_レ

糸_レ全権_レ辨理大臣_レ被_レ也_レ決_レ夜

會_{スル}中井高島杓浦川路岩山ホ_レ

面_レハ_二馬身_一ヲ送_レリ_二号_一事

高崎正風吉原重俊隨_レ行

夜半_レ高崎_一ハ_二家内見_レ多_ク也_レ事

六日高崎正風_一餞_ス禮服_ノ剣_一才_レ入_レ用_ト

申_二旨_一者_ス

新橋_一才_レシ_レヨ_レシ_レ迄勝伊地知_一西_レ参_レ護_レ送_レ来_レ

伊地知曰ノ臺灣、各國ノ前港ヲ約カ
蓋地ハ化外ノ地ナリシニ記シ置タリ仍ニ
其茶約ヲ早ク検査致シ候様正風ニ
傳ス

勝曰ク無難ニ事ヲ終ル(爲)國セヨト東
面目ナリ正風ニ笑

大久保卿 十時乘車 河村輔伊藤參議
并議官小生ニ等ニ送リ

多川ヨリ寺島黒田西參議山尾大輔山田

金花堂

大輔送來皆悉ノ高島嘉吉ノ一樓ノ露大
河路敬覽視長得野紙幣頭松村海軍在
島山支那紅松方租稅課長一會食
其時柳原前光ヨリ上海ヨリ此來ハ甚及之
報告來

内務省大藏、芝場保和、米田憲雄、不日下步敷ニ在リ、四時内務卿乘船
波戸場迄送リ、黒田ヲ女共、今村ヲ休息、五時ノ車ヲ歸シ、
祝砲内外、船ヨリ十九發相放ツ

七日美院 退下古藤片沢入來八百甚飲

丙

北の事院
虎崎あり
下之河一敷

五十四箇ノ預午形ノ并ニ條約セリ及認テ
加藤某之郎ノ後藤ノ使ニ來右
金并托シテ金ノ差引書持来

八日集院

九日集院北河虎崎あり及海軍來

十日今日より亦休暇家内又休

十一日

十二日今日ハ小森河政瑞ノ七回心ニ付

餅揚親族ヲ南日

下之河一敷
金花堂
山縣陸軍少将

昨日五十四箇ノ勘定取立

及渡書等事

取半迄日果來迄

十三日

長政米河より歸ニ到リ

取銀大ハ多ク事ノ森河招ニ本田

持河來事ノ虎崎ニ來招申向

十四日

終ニ在家長ノ御座ニ來

吉藤初
末末末

大暑

大暑

絕頂

十日 新得東來書
十日 戲秋下竟

十日 光緒九年

十日 光緒九年

十日 光緒九年

十日 光緒九年

且

八月十八日

金花堂

金花堂

金花堂

申酉年、畫狀以渡

田中不二麿 △本因親雄

小笠立

伊藤輔

伊藤輔

三嶋 △高崎

石坂周造

井ノ下

中井弘

津地知正治

吉原敬次

上野

西郷 儀助

岩代

井上

井上

由利公正

丹羽豊吉

後藤高平

出岡豊吉

園木佳平

早川景絶

谷 鉄臣

長方久元

丹久保利通

鴻 雪氏

松田时敏

五代才助

田久則

森寺頼吉

芳川 正

前島 密

江藤新平

平代才勝任

金花堂

①三浦 安

鈴木 敏

下村 鑿郎

毛利 玄吉

吉井 正澄

村井 三四三介

板垣 延助

榊原 貞茂

山室 信之

松平 春樹

永井 玄蕃

死 十三

①大田 十日十号池

死 八

十番記

金花堂

十三年五月ノ

石川縣令 千坂

東京郡長 森 區長

福島縣令 山本 大審院判事

愛知判事 川野 秋田判事

米沢高利社 高山 沖繩書院

上杉家杖 池田 總務院議

海軍大書記官 西本林 宣神

元老院准奏任 山田切 元老院准奏任

米沢製絲器械 堀尾 上杉家令

金花堂

正院九等出仕

柿崎家保

元元院書化也

左院十三等出仕

寺嶋太一

同山那長

内務省十四等出仕

中里盛廣

同島聖也

警視廳十三等出仕。大瀧新十郎

同島聖也

敬視廳十二等

毛利元一

平賀勇

代藤四郎

代藤甲依

窪田茂正

十三等

窪田茂正

十三等

窪田茂正

金花堂

十三等

櫻井三从

司法省八等

小田切成徳

教部省九等

齋藤篤信

司法省十一等

藏田信

十等

香坂昌邦

海軍省十三等

長井藤十

九等

小倉信太郎

九等

古海初家

九等

下條仙奴

中尉

○曾根俊虎

少尉

○川屋通宗

木村貞藏

吉江忠吉

文部省七等

○内村公平

陸軍九等

○吃山才女

東京府八等

入澤敏行

十等

目黒八郎

九等

小倉信直

金花堂

十等

断田秀貞

十等

高橋藤内

左院属学生

因分

文部省属学生

山宮

海軍兵

山吉

幕僚

高津

江口

陸軍

宇加地

及部

神保

○ 橙村

金花堂

